

PRAEVIDENTIA DAILY (1月5日)

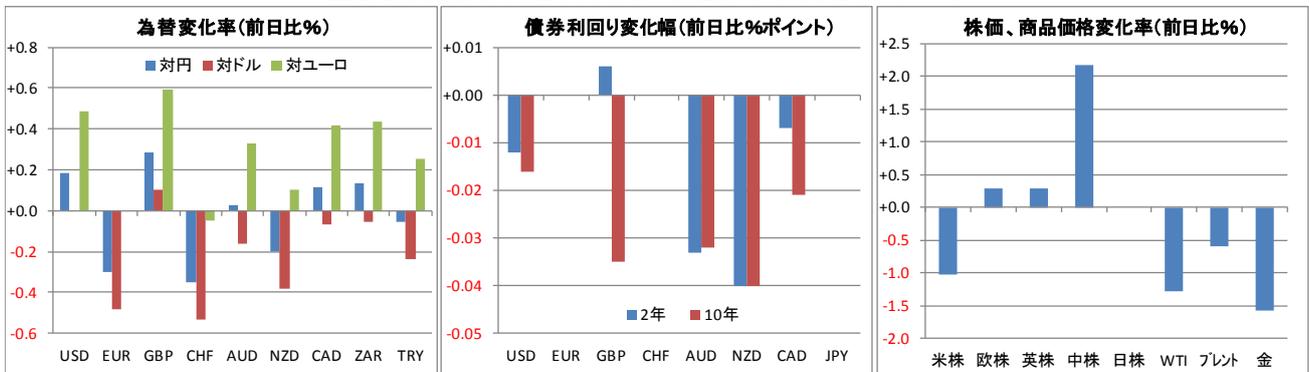
昨日までの世界：米経済指標悪化にも拘らずドル高再開

大晦日の31日は、対主要通貨でのドル高、ユーロ安が特徴的だった。重要イベントがなく、来年に向けた米景気のアウトパフォーマンスとドル一段高、および ECB 量的緩和導入を睨んだユーロ安といった市場の相場観が背景にあったとみられる。ドル/円は前日に材料なく一時118円台へ大幅下落した後、120円（除夜の鐘プラス12）には届かなかったが119.93円へ反発した。ユーロ/ドルはじり安基調が継続し、1.2092と1.21ドルを僅かに割り込み年初来安値を更新して2014年を終えた。豪ドルは対米ドルで小幅安となったが年初来安値（0.8084ドル）には届かず、対円では豪ドル、円ともに対米ドルで軟調だったことから概ね97円台後半で横ばいだった。この間、米経済指標ではシカゴ PMI が58.3と前月および市場予想を下回り、新規失業保険申請件数も29.8万件と前週および市場予想を上回ったが、為替市場の反応は殆どみられなかった。

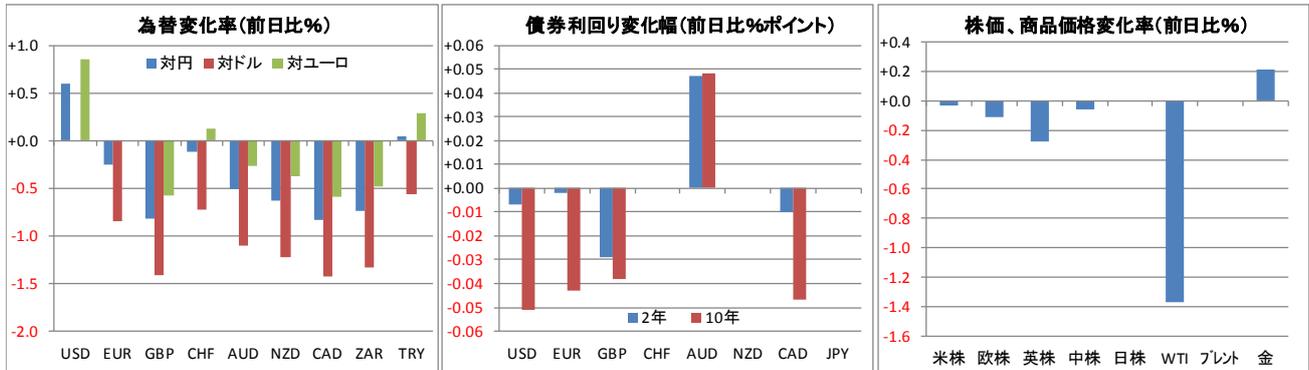
年明けの2日は、悪材料にも拘らずドル高が広がりを見せた。ドルは対主要通貨でほぼ一方に上昇し、ユーロ/ドルは1.1999ドル、豪ドル/米ドルが0.8076ドル、米ドル/カナダドルが1.1785ドル、ドル/フランが1.0014フランといずれも昨年の米ドル高値を更新した。ユーロ/ドルに関しては、Draghi・ECB 総裁の独経済紙 Handelsblatt での発言報道「物価安定の責務を果たせないリスクが半年前より高まっている」「あまりにも長期に亘る低インフレへの対応が必要になれば、2015年初めに我々の対策の規模・スピード・構成を調整する技術的な準備はできている。この点については理事会の全会一致が成立している」「国債買入が責務を果たすための手段の一つになる」が、ユーロ下落の一因となった。

ドル/円相場は、他のドルクロスと同様に東京時間から上昇し、東京時間に120円台に乗せ一時120円台半ばへ、その後 NY 時間にかけて一時120.74円へ続伸した。その後、米 ISM 製造業景況指数が55.5と前月および市場予想を下回ると急反落し、一時1193.85円と120円割れとなった。もっとも、対その他通貨でのドル高傾向の中でドル押し目買い意欲も強く、120円台半ばへ反発して引けた。ISM 製造業の予想比悪化の影響が最も大きく出たのはドル/円だったが、一時的なものにとどまった。

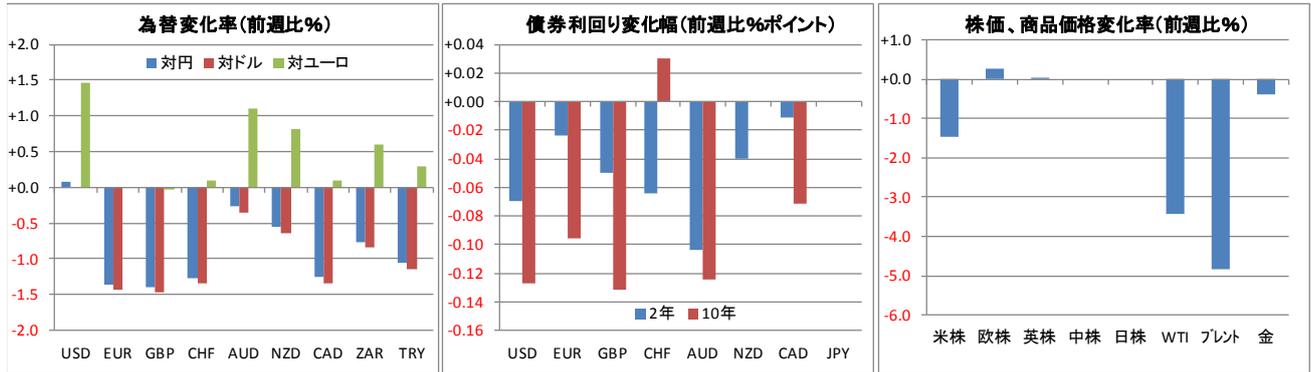
主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化(12月31日)



主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化(1月2日)



主要通貨、債券利回り、株価の前週末比変化



きょうの高慢な偏見：アベノミクスはドル高の初夢を見たか

きょうの注目通貨：EUR↓、USD↑

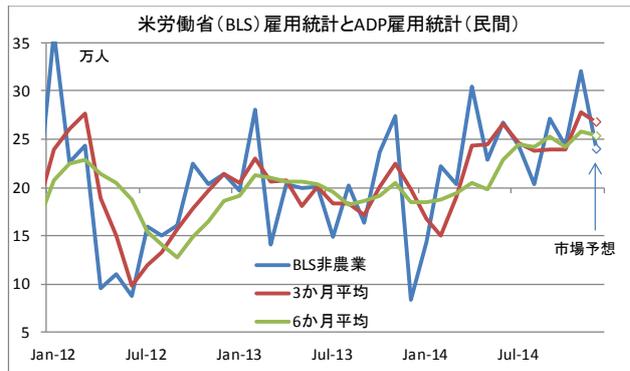
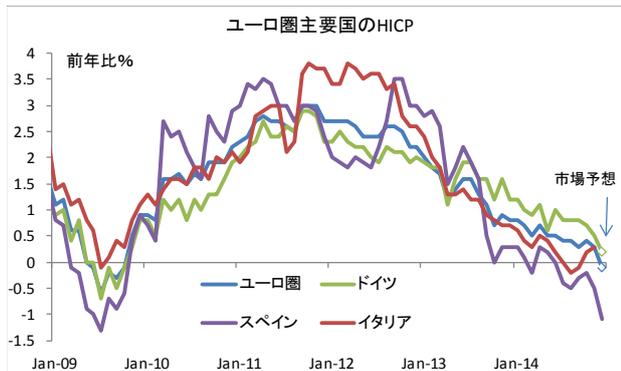
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<5日>				
トルコ 12月 CPI 前年比	17:00	+9.15%		インフレ目標は5%±2%
英 12月建設業 PMI	18:30	59.4	59.0	
独 12月 HICP 前年比	22:00	+0.5%	+0.2%	
<6日>				
豪 11月貿易収支・豪ドル	9:30	-13.23 億		
中国 12月 HSBC サービス業 PMI	10:45	53.0		
英 12月 サービス業 PMI	18:30	58.6	58.5	
米 12月 ISM 非製造業景況指数	0:00	59.3	58.2	前月雇用指数は56.7
<7日>				
独 12月失業者数	17:55	-1.4 万	-6 千	
独 12月失業率	17:55	6.6%	6.6%	
ユーロ圏 12月 HICP 前年比・速報	19:00	+0.3%	-0.1%	
米 12月 ADP 民間雇用者数	22:15	+20.8 万	+22.5 万	
米 11月貿易収支・ドル	22:30	-434 億	-420 億	
カナダ 11月貿易収支・加ドル	22:30	+1 億		
<8日>				
Evans シカゴ連銀総裁発言	8:30			ハト派、投票権あり
豪 11月建設許可件数	9:30	+11.4%		
英 BoE 金融政策決定・政策金利	21:00	0.5%	0.5%	
<9日>				
豪 11月小売売上高・前月比	9:30	+0.4%		
Kocherlakota ミネアポリス連銀総裁発言	10:00			ハト派、投票権なし
中国 12月 CPI 前年比	11:00	+1.4%		14年政府目標は+3.5%
独 11月鉱工業生産・前月比	16:00	+0.2%	+0.4%	
英 11月鉱工業生産・前月比	18:30	-0.1%	+0.2%	
米 12月非農業部門雇用者数	22:30	+32.1 万人	+24.0 万人	
同失業率		5.8%	5.7%	
同平均収入・前月比		+0.4%	+0.2%	
カナダ 12月新規雇用者数	22:30	-1.07 万人		
同失業率		6.6%		
Lacker リッチモンド連銀総裁発言	3:20			タカ派、投票権あり
<10日>				
中国 12月新規人民元建て融資・元	10:00	8527 億		
中国 12月輸出前年比	10:00	+4.7%		
同輸入前年比		-6.7%		
同貿易収支・ドル		+545 億		

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

今週はドル高トレンドの持続性と、経済指標では米雇用統計とユーロ圏 HICP が注目される。米非農業部門雇用者数は前月が予想を大きく上回る+32.1 万人だったことから、+24.0 万人と若干の雇用増ペース鈍化が予想されている。もっとも、月間+20 万人超の増加ペースは維持される見込で、市場予想を下回り+20 万人程度に留まっても前月と均してみれば然程悪い数字ではない。非農業部門雇用者数が市場予想程度に留まっても、失業率の低下傾向が続けばドル下支え材料となりそうだ。とは言え、再び 122 円を目指すには前月程度の雇用増が必要とみられる。金曜の雇用統計を前に、連動性が高い ADP 民間雇用統計や ISM 非製造業の雇用指数の動向も注目され、足許のドル高基調のもとで、良好な結果を睨んで雇用統計発表前に昨年高値近辺である 122 円を目指す展開となりそうだ。

ユーロ圏では HICP 前年比が注目される。既発表のスペイン分は前年比-1.1%と市場予想を大幅に下回り、本日月曜発表のドイツ分も更なる低下が予想され、かつユーロ圏分は-0.1%とマイナス化が予想されている(下図を参照)。既に以前、Constancio・ECB 副総裁が今後数か月でマイナス化するとの見通しを示していたが、かなり早くそれが実現すると、1 月 22 日の政策理事会での量的緩和導入期待に繋がり、ユーロ/ドルは 1.18 ドルへの続落も視野に入りそうだ。

豪ドルや NZ ドルの対米ドル相場は、雇用統計を睨んだ米ドルの動向に加えて、週末の中国輸入統計や新規融資計数が注目となる。中国景気は全体的に鈍化傾向が今後も続くと思われる中、経済指標の更なる悪化が豪ドル、NZ ドル安に繋がり易いだろう。多少の改善を示しても持続性が疑問であることから、豪ドルや NZ ドルの押上げ材料としては力不足となりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商) 第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641